兵庫　M　Y　生

寫生中に子供の集まるのは眞に閉口、何とか工風はないものか　大に苦しんだ上、白銅一個を出して、子供達に昆蟲の採集を命じた處が、七八名は喜んで何處へか往て仕舞つた、ヤレ〳〵安心、以後この事〳〵と心中に思ひ、天下の妙案と獨り悦に入つたすると又々一人二人と忽ち澤山集まりかけたので、今度は大一匹壹錢、小一匹五厘で買ふから、成たけ緩々取つてこいといふたら、直ちに立去つた。成だけ蟲の居ませんやうにと心に念じつゝ寫生して漸く出來上りに近づいた頃、幼年採集家は何れも集まり歸たが、採つた蟲の數は大小取混ぜ五十六匹、何れも大物計りで驚いた。隨分珍らしいものも中に在て、參考にはなるが、賞金大枚五十六錢は大散財で、ワツトマン二枚許り棒に振つたのは、妙案どころか例によつて大失敗であつた。

青葉集（その二）

言　祿　生

△繪を習ひし爲め得し利益甚だ多し、獨立獨行の偉大なる精心を養ふは其の一なり。繪畫は獨創を尊ぶ、他人の模倣は最も嫌ふ所なればなり。

△我一日河邊に釣師をスケッチす釣師大いに恐る、畫く者惡しきか恐るる者無理なるか（終）

## 探勝だより

北多摩　山　本　野　琴

僕等は午前十一時有名なる甲府驛へ着いた直ぐその足で目的地點たる御嶽山へと行軍（？）を初めた。登山地點たる和田峠を越すとかの有名なる日本三急流の一たる富士川へ、一直線に射るが如く流下する荒川の沿岸へ出たのである。この荒川こそ御嶽山沿道に於ける絶大の配景となるのである。見よ〳〵、全山悉く花崗石で包まれた荒川の急流には、その眞白な大岩石が人目を眩ずる許りの白光を放つて、横はり、その間を直下する丈餘の奔潭は、岩を嚙んで飛沫と化するので、時ならぬ白雪時ならぬ落花を現じ、雲烟飛沫、斷崖模湖として、遠く聞こえるのが、その名もきよさ仙娥瀧で、近く聳ゆるのが、昇仙峽隨一とも云ふべき覺圓峯である。僕等はもう、仙化した氣で、得意の口先で、『あゝ新耶馬溪！』。と三呼した。こんな絶大の偉觀がドコにあらうか、コンな幽邃な美觀がドコにあらうかと、僕はポーッとして迷想鄕を辿りながら、スケッチ一つ出來ず、沿岸の流を溯ること、五里許りで、幽靜無限な御嶽の金櫻神社に着して參拜後大黑屋と云ふ、旅館に投宿した。

この夜、僕等は思ひ〳〵に、途中紀念スケッチを繪ハガキにして、自慢氣に、故鄕の友へ送つてやつた。

## 若葉會報告（通信）

今般水戸中學に於て五年生の有志發起となり、水彩畫の進步發達を謀るの目的を以て若葉會と申す團體を組織し、各自の寫生畫を集め、肉筆の雜誌となし、毎月一回發行する事と定め巡番に會員に廻送して互に批評を加へると云ふ規定に致し、去る六月二十二日を以て若葉會第一集を發し申候。集る所の繪畫廿點、忠實なる寫生あり、酒落なるスケッチあり、中々面白く御座候。目下會員は五年生のみにして僅か九名斗りに候へ共、何れも皆非常なる熱心家なれば、將來有望の團體と存じ候儘、一寸御報告に及び候。

猶一年生より通じて募集する考へに御座候

水戸中學　大橋三平氏報